

## 多様期の実習船建造過程における検討委員会の役割と教育的思想

### Role of the review committee and educational thought in the process of building a training ship during various periods

小坂康之 (福井県立若狭高等学校)

Yasuyuki Kosaka (Fukui Prefectural Wakasa High School)

#### 【要約】

水産・海洋系高等学校における実習船教育の多様期である現代において、福井県立若狭高等学校海洋科学科の実習建造の記録から、検討委員会がどのように計画立案プロセスに影響を与えているのかを検討した。検討委員会の記録から、ファシリテート役の教師が多様なステークホルダーの意見を尊重し議論を重ねる中で、実習船教育の目標を定義し、共有することで迅速な意見の集約、決定がなされ、産業界や地域の状況に応じた実習船の建造計画の立案に至ったプロセスが示された。検討委員会における実習船建造の議論は、エッセンシャル・スクール連盟で実施された「逆向き計画」、文部科学省が推進するコミュニティ・スクールの理念・思想と一致していた。

#### 【キーワード】

水産・海洋系高等学校, 実習船教育, 実習船建造, ステークホルダー

#### I はじめに

佐々木・平山 (2012) は、水産・海洋系高等学校における実習船教育における歴史的変遷について、実習船教育の変遷を躍進期 (1950 年代以降)、後退期 (1970 年代以降)、停滞期 (1990 年代以降)、多様期 (2000 年代以降) と定義した。停滞期からの大学進学率の上昇と普通科志向、地方における少子化の進行によって水産高校進学者が減少し、現在も影響を受けている多様期は、海技士資格を生かせる就職先が漁船から内航商船へと大きく変化し就職先の多様化が進み、産業界の現状と将来を見据えた新たな検討の必要性を示した<sup>1)</sup>。

教育内容の変遷とともに実習船の装備、船型や大きさは変化してきた<sup>2)</sup>。特に多様

期における現代では、使用する実習船において、産業界や地域の状況や将来に応じて建造する必要がある。

福井県立若狭高等学校<sup>3)</sup>の実習船「7代目雲龍丸」は、多様期にあたる平成 29 年より建造計画が開始された。

実習船教育における多様期において実習船がどのように計画されていくのか、その決定に関わる組織や教育的な思想を明らかにすることは、今後の水産・海洋系高等学校における実習船建造および実習船教育の在り方を検討する上で必要な知見となる。

しかし、実習船教育の舞台となる実習船建造の計画過程に関しては、報告例がないのが現状である。

そこで、本稿では、福井県立若狭高等学